

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和2年7月22日(金) 18時00分～19時40分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 5F 505 教室
参加者	外 部 委 員 : 参加6名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 4名(白井校長、井坂副校長、小川事務長、大江バイオ科長)
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和元年度自己評価報告書 ⑤ 令和2年度第一回学校関係者評価委員会 PP 資料
	1. 開会の辞・事務局紹介(事務局) 井坂副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。 尚 Covid-19 対応のため、学校側からは最少人員の参加者(白井、井坂、小川、大江)となった。 2. 学園側関係者挨拶 白井校長より、コロナ下での開催にかかわらず参加いただいた委員の方に対するお礼、挨拶が行われた。 3. 委員紹介 井坂副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。 4. 議長ほかの選出 事務局より、会議の議長は会則では霜野委員長(日本インテリアプランナー協会会長)が担当することになっているが本日委員長欠席のため、渡邊副委員長((株)データテクノロジー社長)に担当いただく旨提案がなされ、全会一致で了承された。また書記として選出されている小野寺委員((株)光英科学研究所)欠席のため、書記を事務局にて代行した。 5. 開催要件の確認 事務局より外部委員 16 名中 14 名(出席 6 名、委任状 8 名)、半数以上の参加があることが報告され、本会が成立していることが確認された。 6. 議事 (1)第一号議案:令和元年度第2回会議議事録についての確認 議長は事務局に対し資料③に基づき前回議事録の確認を指示し、井坂副校長から説明があった。その後議事録についての確認を出席者に回ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。 (2)第二号議案:新型コロナウイルス感染拡大防止対応ならびに令和元年度事業報告 ①新型コロナウイルス感染拡大防止対応状況 (白井校長) ・イベントの中止。昨年度末(卒業研究・RJP 成果報告会、各種国内外研修、卒業式) 今年度(入学式、ガイダンス、健康診断、保護者会)いずれも中止とした。 ・4月5月教職員在宅・時差勤務、5月新入生・在校生ガイダンス実施(遠隔授業設定)、 5月後半より遠隔授業、6月より対面授業開始。 ・感染防止に留意し授業運営(チェックリスト・感染初動マニュアル等設定、時差通学、遠隔授業の併用、 入校時検温、消毒、マスク着用徹底、教場への空気清浄機設置等実施) ・授業対応のための機材(マイク、スピーカー、カメラ等)の設備導入等実施。 ②令和元年度事業報告(白井校長) 1) 専門学校を取り巻く状況:学習指導要領改訂、大学共通テスト導入、教育の質保証、 高等教育の無償化、リカレント教育の要請など 2) 令和元年度事業報告: ・学生募集 350 名目標 331 名入学(目標には達しなかったが前年度比 6.7%増) 一般入試でのネット出願開始。出願増加ねらう。全体として増加傾向にある。 ・教務指標 退学率 5%以下目標としたが結果は 7.4%と達成できず。一昨年の 4.5%から増加。 教員も増員しており、きめ細かい指導で改善に向け努力する。 ・就職 早期内定目標(8月 90%) 結果 88%とわずかに届かなかったが 8 月としては過去最高の 内定率。新規大手・実力企業の就職内定も得られている。 ・わかる目標・できる目標展開 コマンラバス、履修判定試験見直しの改善展開中。 ・学習成果の見える化 e-ポートフォリオの導入(キャリアマップ(就職支援クラウドサービス)での展開) → 企業からのオファー数は少ないものの繋がりが出てきた。 卒業生向けサービスの拡大 → 中途採用情報発信 6 月開始 ・リアルジョブプロジェクト(RJP)活動報告 建築監督科(8 階教場美化、バウハウス 100 周年事業共済イベント参加)

建築科(10 階共用部、校内共用部への改装計画提案、中野調査研究)
 インテリア科(学生寮リノベーション提案、各階階段室の椅子製作)
 情報処理科(AI 活用(KAIBER)、IoT システム構築(Raspberry Pi)、アプリ開発(またずにバス)
 ゲームプログラミング科(ヒット作ゲームの主人公目線でのリメイク)
 web 動画クリエイター科(NPO 法人の Web サイト構築、吉祥寺ハロウィンイベント Web サイト構築
 と運用、RJP ペーパー)
 バイオテクノロジー科 (テラカフェメニュー多様性検討、理科実験教室開催、ディスプレイ(ハーバリ
 ウム)、校内緑化)
 環境テクノロジー科 (校内外緑化(屋外用プランター製作)、廃液処理装置、水生昆虫分類同定
 廃液処理装置制御、プラスチック廃棄物の現状、プラ容器の廃止検討)

・海外研修等特別プログラムについて

海外短期留学研修(SISP) 7 月 10 日～7 月 23 日 14 日間、ピッツバーグ州立大学
 全体で 16 名参加(テクニカル 4 名)
 建築インテリア海外研修、環境国内研修(屋久島)は中止。
 Web デザイナー検定ベーシックで Web 動画クリエイター科学生が文部科学大臣賞受賞。
 T シャツデザインコンテストで同科学生が優秀賞受賞。

・高等教育の負担軽減策報告

高等教育の無償化→7 月確認申請提出→9 月決定→受け入れ準備開始
 新・修学支援制度 2020 年 4 月開始
 授業料等の減免、給付型奨学金制度が拡充。
 世帯収入基準と学習意欲の確認により支援を実施。(審査あり)
 支援採用後も家計、学業成績確認により支給継続の可否を判断。
 令和 2 年度全体で 54 名に支給開始。

・専門人材育成訓練等に関する報告

- ①教育訓練給付金拡充(専門実践教育訓練;雇用保険 2 年以上の被保険者期間、
 建築科夜間学生の 45%が受給。)
- ②専門人材育成訓練制度の受け入れ(職業実践専門課程に公共職業訓練枠を設ける制度)
 令和元年度 バイオ科 3 名
 令和 2 年度 バイオ科 5 名、環境科 5 名、Web 科 3 名受け入れを申請。

・令和元年度自己評価報告書改定説明

資料④に基づき指摘事項の改善状況と自己評価報告書加筆事項について説明を行った。

- 3)自己評価報告書 資料④改定部分(赤字)について、指摘事項に基づく改訂部分を示し、各委員に
 確認願った。

(3)第三号議案:令和 2 年度事業計画(白井校長)

①基本方針に関する報告

- ・募集 350 名以上、退学率 5%以下目標。
- ・カルテ、履修試験の分析 ⇒ 正解率の悪いものの分析を実施し、どこがたりないのか、何が必要なの
 か?各教員担当科目のうち 2 科目検討にチャレンジする。
- ・学園祭を中止し、春に学習成果報告会実施を計画。
- ・新学科の開設 ⇒ イノベーションに対応。IOT と AI、データサイエンスと AI に関する新学科。
 カリキュラム開発年内 ⇒ 来年 2021 年 4 月新科募集開始 2022 年度開講目指し検討中。
 共感される学校創りに向けて、入口、教育、e-ポートフォリオ、さらに新科開設と種々組み合わせて
 募集伸ばしていきたい。
- ・専門人材未来会議の開催
 各分野・業界の専門の方にお話いただいて、カリキュラムをどうしていくべきか考える機会を創出し、
 勉強を進めて、今後のカリキュラム構成、学科連携につなげる。新しい学校創りを目指す。
 9/8 ①データサイエンスの現在と未来 ②バイオテクノロジーの現在と未来
 11/2 IoT、環境系
 1 月 建築系など順次すすめて行きたい。

(4)第四号議案:審議(取り組みに関する意見交換)

議長は令和元年と 2 年度の報告について各委員の意見交換を促した。また井坂副校長より審議の主旨につ
 いて再度説明があり、各委員が感じられたことを自由に発言いただきたい旨のお願いがあった。
 以下に各委員の発言概要を示した。

澤坂委員(㈱アルチザン;ゲーム PG 卒業生):

IoT を専門学校としてどのような形で教えるのか? プログラムであれば web 系の言語などのいずれか、
 あるいは iPhone やアンドロイドなどのスマートフォンを利用したシステム開発志向の授業となるでしょうし、
 アイデアの方向であれば、経営よりの考え方を持つ必要があるかと。

IoT とデータサイエンスはこれからのびていく。例えばウーバーイーツなどでは、スマホで検索してすぐに運
 んでくれる。米国電気自動車メーカーテスラの株の総額が、日本のすべての車メーカーの株価総額よりも
 多くなっている。テスラでは電気系の開発が進んでおり、スマホを使って自動駐車させるシステムのテスト
 をしているが、これができれば今後ウーバーイーツはすべて自動運転での配送も可能になる。ドローンで
 の配送システムもできてきている。スマホに限らず Amazon のスマートスピーカーなどでは、ほしいものを

音声で問い合わせ、そのまま注文できる。
これが進めば家中の家財をつなげたシステムができる。IoTとAIは今後すごく伸びると予想されるが、この状況を考えたうえで専門学校としてどの部分を教えるのか？

井坂副校長:学校教育の中では基礎を教えることが大切。卒業後澤坂氏の話された例のようなことをやる会社で働ける素地づくりといえる。基本的なセンサーを入力装置として使い、その処理を行い出力させる。その辺のことが中心になってくる。その中でIoTで何が必要となってくるのか？これは問題発見、解決する力である。これをしっかり学習させたい。

通常の授業の中では基本的IoTの技術を学ぶ。RJPで新しいところへのチャレンジを進めていく。
通常授業学科については、渡邊氏の会社のカイバーフレームワークを利用して基礎を任せていく。

澤坂委員:実際はプログラムをやるということか？

井坂副校長:そうです。情報処理科と違うところは入力センサーであるところ。センサー入力→プログラム処理→出力 この辺が中心となる。

渡邊委員:具体的にイメージしにくいですが…機械の動きの見える化、測って動かすということですか。

岡山県でWeb系、組み込み系、ハード系企業が集まって、みんなのIoTコンソーシアム している。これに誘われて当社も参加している。

最近岡山のバナナ農園や産廃業者から相談が来ている。何ができるのか？

まだこれからであるが、実際の問題をどうシステムを組んで解決していくか…これがスキルのゴールであるとイメージしている。

樋口委員: 白井校長の発言に、AIによる流しのタクシー集客の話があったが非常に興味深い。いろいろな方向に利用できると思う。建築の技術者はお客さんとの対話が苦手。技術にどうしても偏る。インテリア系の方は技術に入り込まずにお客さんと話すことのできる方が多い。
技術のことは伝えずに、お客をいかにとるかが大事だと話している。

白井校長:建築といえば、電気自動車が入ってくれば家との関係もかわってきますね。

渡邊委員:すでに建設現場の気温等自動計測し、熱中症指数を算出して現場にアラートを発信するシステムやタワークレーンに風速計を付けて、風速が10mこえたらオペレーターに注意し運転を中止させるなど具体的に進んでいる。セメントのむら測定などにも挑戦したが、これはセンサーで圧力取るものだったがテストしたがよくわからなかった。

白井校長:図面に高さ方向のデータが埋め込まれていてVRゴーグルで見るとその仮想建物の中に入って確認できるシステムも開発されている。VRと建築は親和性が高い。

佐々委員:3つあります。

①授業の問題点の発見と改善手法。 一人2科目見直しということであったが、これは先生方にとって大変かなど。確かに数値化するとぬけがない。定性的だけではなく定量的な評価は必要であるが、教育は人間を扱う。数字が独り歩きしないように注意が必要。未来を担う先生をつぶすことがないように気を付ける必要があるかと思う。教員が心を病んでしまう問題。

上に立つ方はこの辺十分に気を付けていただきたい。

②3号議案3P。入学者増は心強いが、少子化の流れがあり全体のパイは小さくなっていく。そこをよく考えないといけない。例えば新しい科を作るのであれば一方で古い科の整理や縮小についても検討しないといけないかと思う。柳の下にどじょうはそういない。

③未来会議 楽しみにしている。

AIとかIoTということであるが、今コロナ禍を経験してライフスタイルが、暮らしがどうなるのかと思う。フィロソフィーを問う問題である。

JSTのスーパーサイエンスハイスクールのプロジェクトに立命館高校が生命学ということで採択されている。普通ナショナルプロジェクトがあるとそれに合わせて慌てて作るが、立命館ではすでに生命学、ヒューマンバイオロジーを学ぶ必要性を感じて、これを進めていた。それを提案して第一期採用校となったわけである。立命館は法律など文系が強いが、学校が文理問わずヒューマンバイオロジーをやらないとやっていけなくなると考えてカリキュラムを作っていた。

未来会議がこれからのライフスタイルを問うようなTTCのフィロソフィーを作る、人間がどうあるべきかの基盤を作る、そのような議論をしていくものであってほしい。今後どこを伸ばしてどこを縮小すべきか考えるうえでのベースになっていくと思います。

白井校長:文理融合。文系の力が重要になっていく。データサイエンスでも多数のデーターからどのようなことを汲み取っていくのか、いろいろなことをトータルに進めていく必要があると思います。

岸委員:未来のお話大変興味深いですが、わたくしは学生がどのような気持ちで学んでいるかが気になる。

楽しくないといけないかと、続かないかと思う。楽しく学んだ記憶は学生の人生の支えとなる。

未来の技術は面白いと思うがその反面、どのような社会が良いのか。どのように生きたいのか掘り下げることがある。良い社会は多くの人の合意が必要。それには、そのための技術と人間的力がないとできな

い。それがこれからは大切。また日々の仕事、付き合いでも今まで考えもしなかったことが大事になってきている。

これからは衛生という言葉。衛生はいわゆる清潔さということから、本来の生命を守ることに関わってきている。生命って何か、社会ってなんだろうかと…といったところでしっかりとした考えを持つことが必要かと。それと先端的なことが組み合わさるとどうなるかと思うとワクワクします。

白井校長:技術だけではなく、そこを伝えるような努力が必要かと思います。

井坂副校長:例えば未来会議について地域の方たちの中で興味を持つ方いますか？

岸委員:言い方にもよるか。あとはどんなことをするかで。只この学校はどの様なことをやろうとしているのか興味を持っている人はいます。響くことがあればよい。

学校が自分たちのことを一方的に語りたいとすると、なかなか人々は響かない。

一緒に社会を考えたいといった切り口があると良いかと。

佐々委員:「響く」というのは引き出す力であると思う。技術を持つ人は、こんな治療がいい、こんな車がいい、こんな街づくりがいい…といったように言いたがる。

実は相手はどの様な生き方をしたいのか、どのようなことを望んでいるのか、あまりよく考えていない。

カウンセラーの様に、情報ならこのようなソリューション、建築なら、自動車ならこのような解決策がありますがどうですか？といったように押しつけにならないように聞く。

今回の未来会議の中では、いろいろな分野についてまず聞くことです。パラダイムシフトを得るためには、聞く姿勢が必要かと思います。私が教えますよ、助けますよ…ではないように進める。

渡辺委員(保護者):校長先生と一対一でお話したとき、シラバスを作りすぎると学生が自分から考えなくなる。

それでRJPを作ったと聞いてなるほどと感じた。私は小学校教諭をしているが、学習指導要領も変わり今までは言われたままに仕事をする人材をよしとしていたが、人と対話していく力、対話を通して自分で考えていく力。主体的に学ぶ力をつけることが必要とされている。

これからいろいろな技術が出てくる。どこにニーズがあってそれをどの技術とくっつけていくか。

聞く力とそれを自ら考えていける学生を作っていくことが必要かと。

先ほど経営という言葉が出ていたが、今考えたのは経営に関することはないということです。

最近若者が新しい会社を作り大きくなっていく…という例が出てきているが、この学校はそれを支えられる人材を作れるのではないかと感じている。

この学校と出会う前、専門学校のイメージはいわゆる即戦力となる人材、技術、技能を身に付けさせるところという感じであったが、この学校の卒業生を見ていると人間力をもって戦っている人が多いと感じた。

それを生かすためには経営の力、お金を集める力、プレゼンの力、そしてフィロソフィーをもっていること。

大学だと最初の二年間の教育課程でこの辺のことが出てくるのだろうが、今の専門学校にはない。

これが全校にあって、足元の技術をそれぞれしっかり持ったうえで、卒業生が実際に活躍している様子を示し、このような人間になっていくことが必要でそのためには…といったカリキュラムの構築ができればと。

渡辺委員:未来会議についてですが、自分の職業柄、技術的なところからのかかわりしかない。

IoTもウェブに出ている画面以外は人間は一切触らない。それを使った人がどう感じるのか？使った人が楽しいのか？という視点がない。どうしても技術よりになる。

コロナを経験して思うのは人がどう生きるのかが重要なのだということ。自分たちが作ったものを人がどう使って、どう体験をしてくれて、どう人生が豊かになるのか。そういうところまで考えて行けるようにならなくてはいけないのかと思う。

ぜひこの未来会議にもそのような要素を入れていただければと思います。

白井校長:経営の視点というところ、心理学、社会学、文化人類学といったところが絡んできますが、ここが教えられていないという点は残念なところ。もう少しカリキュラムを変えてみようかという気持ちはあります。

例えばRJPだと一年はこのようなBasicな勉強も入れて技術の勉強をし、二年になってから問題発見、解決していくように組み替えをしてみるのも良いかと。専門性と社会性が出てきたので、もう少し違うところを一年次に加えると幅が広げられるかと。ここが専門学校生で欠けているところかと思う。もう少しここを分厚くしたいという気持ちはあります。

渡辺議長:ありがとうございました。学校関係者として学校らしい取り組みがなされており、適切であると評価いたします。ハードル高いところもありますが教育的視点からの改善にぜひ取り組んでいただきたい。

井坂副校長:以上で終了いたします。次回は11月27日金曜日を予定しています。

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。

以上

--	--

議事録署名人

_____ 印

_____ 印